

令和3年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	結果の考察・分析及び改善策
1. 教育活動	○教育理念・課程に沿った授業計画・実践をしているか	○「分かる授業」の実践。 ○シラバスを見直し再構築する。	◎年度当初の講義導入時に学生にシラバス・授業計画を基に授業の目標・目的・進捗計画等を伝えたか。	令和2年度 B(3. 1)	B (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度も教務部が一括して取り纏め、冊子を作成して授業開始前に学生への配布を完了した。今年度も、導入し使用したとの意見がほぼ全数となり、教職員の意識改革としての「シラバス・指導計画事前配布」の成果はあったと判断する。今後は、本来の根本目的である「学生へ授業の目標・目的を浸透させる」とこと、毎年の効果を上げるために見直しを反映させたシラバス・指導計画のを確実に行うことを目標としたい。
	○キャリア教育の視点に立った教育方法の工夫をしているか	○「建学の精神」の具現化に徹する。	◎授業においてキャリア教育に関する指導を行っているか。またその指導の定着を図っているか。 ◎進路や将来についての学生指導・アドバイスを行っているか。また心がけているか。	令和2年度 B(3. 1)		<ul style="list-style-type: none"> A○取り纏め資料とは別に、シラバス・授業計画を講義初日の導入時に必ず配布して、目標・目的を明確にしている。 ○今年度後期から、「二輪車整備」「二輪車構造」の継承のための取り組みを行い担当者へ引き継いだ。（全てのシラバス、講義計画、資料、教材の精査と改訂を行う） ○前期開始・後期開始時に学生へシラバスを配布し、全体の流れを説明できた。○シラバスの見直しなど出来ていない所がある。 ○感染症対策により課題対応の授業もあったが、昨年より進捗がスムーズであり、余裕をもって授業が実施できている。 ○資料内に確認問題を細かく取り入れることにより、理解度を知ることができていているので次年度も継続をする。 DO前年度授業実績を基に指導内容および伝え方などの変更を行っているため、今年度実績も次年度に反映させたい。 ○理解度の確認を行いながら、進捗状況の見直しを常に行うことで、欠点を減少させることができた。 EO担任・科目担当者として配布を行い、学生への伝達も伝えることができている。 ○年度当初に見直しは行ったが、学生の理解度に合わせ毎時間改善を行っている。 FOシラバスの計画を基に授業を進め、単元ごとの要点を理解させる授業を行った ○実習授業と内容をリンクさせ、理解度の向上を図った。
2. 学習成果	○資格取得率向上を常に考え取り組んでいるか又貢献しているか	○過去問題の教材研究を怠らない。 ○必須取得資格の未取得学生を常に意識した指導を行う。	◎現2年生の2級模試（12月期）において、担当した科目（1年・2年次に担当していた、又は担当している）のセクション平均点は6割を超えているか。	令和元年度 C(2. 3)	B (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> ●全教職員ともキャリア教育について意識しているが、その成果にまでの言及はない。その成果事例や定着度合いの検証を行い、次年度に繋ぎたい。 ●キャリア教育でもある「卒業生講話」も6年目を迎えマンネリが見えてきた。そのため目標・目的・視点を見直すとともに、実施の主旨を再度考えての今年度の実施となった。「実施することが目的ではない」を掲げ、各学年ごとに特化した「卒業生講話」を実施する。その検証を踏まえ、次年度の内容を吟味して、本当に必要な講話実践を目指す。
	○就職内定率向上を常に考え企業との円滑な関係構築に取り組んでいるか	○学校行事と連携した企業との密接な関係構築に努める。	◎業務の企業窓口担当者は、積極的に行動・提案して、円滑・綿密な企業対応に心がけ学生・学校的評価向上に勤めたか。 ◎業務の企業窓口担当者以外は、担当者のサポートとして、事前準備等に積極的に取組み、学生・学校的評価向上に勤めたか。	令和2年度 B (2. 6)		<ul style="list-style-type: none"> A○企業担当者との意見交換等で収集した情報を、教員との共有後、学生に伝えてきたが、学生に伝える場面が確実に少なくなってきた。その分、教員へ情報を提供しているが、企業の思いや事例が、教員に浸透して学生に波及しているかは確認できない。 BO最新の自動車業界の情報などを入手した場合には、学生へ展開することが出来た。 CO社会人としての心構えなどを話したが、定着には至らない。 OEV（電気自動車）の特長やセンシング技術について学び、授業に取り入れることを実践している。 ○進路指導については、学生が早期に目標を定められるよう、一層の工夫が必要である。 DO「教養」の授業を通し、社会性や専門性などを伝える時間を毎授業で確保している。 ○将来の仕事内容に置き換えた内容の伝達を行っている。 EO自指す学生像に近づけることができるよう日々指導を行っている。○卒業学年の担任であり、就職後も考え方指導を行っている。 FOその時の授業内容が、将来どう関わってくるのかを理解させ指導を行った。○進路や将来については常に指導を行っている。

3. 学生支援	○学生と常日頃より良好な関係を築き、学習・進路・生活の支援を行なえているか	○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	⑤学科会、学年会、推薦委員会等の開催や開催要望等を行い、学生の情報共有に努め、学生がより良く改善するための指導策教検討等に対して積極的に問題提起・発言・発案を行ったか。	令和2年度 B (2.5)	令和3年度 B (2.8)	●今年度より、「学科会」の平常定例実施がで行えている。「学科会」の主旨は、情報の共有と発信、学科行事の早期検討であるある事を更に理解してすすめ、自動車工学科の「核」となる定例会になって欲しい。 ●「学科会」を自動車工学科の「核」とするためには、学科職員が“学生が主役”であるこの原点に立ち返り、入学してくる学生や保護者が「学校に求めていること（より良い職場、希望の職場への就職や確実な資格取得）」であることを再認識して即行動する組織の構築を図っていく。そのためには教職員一人ひとりが「迅速な情報の発信と共有」が根幹にあること再認識する。	AO学科会を平常化することは出来た。活発な意見交換と自主性・自発性をため介入しないようにしている。計画性と案件の掘り下げについて要望しないといけない面もある。「実施する」事に重きを置かずに、「今必要な案件を組織としてどう対処するか」の審議に費やして欲しい。 BO学生指導などの発言・発案は少なかった。 CO学生会活動・行事を含め、自分で考えて行動ができるよう助言を行う指導を行っている。 DO先生方との情報共有や連携を強化する必要がある。 DO学生への目配りを心掛け、声掛けを常に行うようにしている。 DO気になる学生への声掛けを行うとともに、担任への情報提供を実施しているが、もっと全体への声掛けを行う。 EO科会等では自分自身が報告のみとなっているため、的確な良否判断できる能力を養い、積極的に発言を行う。 FO学生の学習指導は未だ不足している為更に時間を作り対応する必要がある。
○学生への目配りを怠らず、退学防止に努めているか	○無欠席の目標を掲げ取り組む。 ○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	⑥やむを得ないと判断（管理職判断）以外の退学者の発生は出でていないか。又、予備軍を適切に指導できているか。 ⑦科目担当者として、必ず毎回授業中の情報を担任へ自ら提供したか。	令和2年度 B (2.5)	令和3年度 B (3.0)	●今年度の現在までの退学生・休学生について 【2年生】：退学者なし。休学生1名【年度当初からの休学：学外の異性とのトラブル】 【1年生】：退学者1名【進路変更となっているが、学習意欲の欠如と学生生活不適応が原因【復学から3ヶ月での不登校】】 1年生の退学者について、両親管理下による自宅通学要求を含め、あらゆる手段を尽したが、改善できなかった。 復学するための、保護者ではなく本人の意識確認が安易であったのではと反省している。	AO学生情報提供及び担任からの情報聞き取りと助言を直接担任と科長に積極的に行った。今年度休学から復学した学生の動機の曖昧さに事前指導を課し、本意の確認を学科主導で行うように提案したが、担任主導の不完全指導であったのではと感じる。 BO気になる学生を見かけたら、学生へ声かけを行うと共に、学級担任へ情報を提供した。 DO通学車両などへの確認意識が足りていない部分もあった。 CO退学者が発生しないように担任との距離感を考え、主である担任の声が学生へ届きやすいように発言・行動をしている。 DO授業中の学生の状況については、自分も反省しながら気付いた件を報告するようにしている。 DO授業中の学生の状況や注意すべき情報を伝達している。 DO今後は、担任と連携し学生個人に対して細かな指導が行えるよう取り組む。 EO今年度の退学者は発生していない。（2年生） FO復学者の退学はやむを得ないと判断であったが、令和3年度入学生の退学者はOである。 FO入学当初に、進路に迷いのある学生が出てきたが早期に対処し、現在は就職と国家試験合格に向けて取り組んでいる。	
○教室・実習場の整理整頓に心掛けているか又補修が必要な設備を放置せず報告したか	○「学びの場」の環境保全を教員・学生と連携して取り組む。 ○施設保全＝学生満足度と考えて取り組む。	⑧教材・機器備品の使用は学科教員も把握しているか、使用後の片付けや清掃は即対応しているか。	令和2年度 B (2.6)	令和3年度 B (3.0)	●先ずは雑多となっている実習場の教材・機器の整理・整頓・廃棄が先決。それを行ってから、正確に管理された「教材・機器・備品リスト」を教員への配布してからのスタートと感じる。そのリストをもとに「今回の授業で、何をどれだけ使用する」等の申告を行い、教員間で把握出来る体制を作りたい。 ●1年生に「二輪実習室」、2年生に「資格対策室」が準備できている更なる充実を目指す。	AO教室の整理整頓は行えているが、各学年の教材準備室が充実しているとは言えない。実習場は整理整頓されているとは言いたい。二輪教材・その他の教材置場を二輪実習スペースに変える取り組みを行った。 BO単元が終了する度に、後片付けを意識し「元の位置へ戻す」ことを意識したが十分ではなかった。 CO全体の協力が必要不可欠だと感じた。 DO設備管理への協力が不十分だったと反省をしている。 DO危険個所の有無について点検を実施し、修繕箇所の提案を行っている。 DO買い物に至らない備品の修繕を行っている。 EO共有機器、備品、工具は毎回片付けるよう心掛けている。 FO機器備品の整理整頓を行っている。 ○次年度より、片付け・清掃などのシステム化を図る。 ○準備室の整理整頓が定期的に行えなかった。 ○教室のプラインド交換を要望した。	
4. 教育環境	○機器・備品の適切な取り扱いに心掛けたか又積極的に必要な機器・設備の要望を行ったか	○コスト意識をしっかり持った業務を行う。 ○学生満足度を意識して業務を遂行する。	⑨学科の予算要求に対して「わかる授業」のための教材の見直しを図り、必要と思われる機器購入等の要望を行ったか。	令和2年度 B (2.6)	令和3年度 B (3.0)	●毎年10月には学科の「今年度の現状」「次年度の構想」「次年度の要望[人的・物的]」を明確にして、学科教職員で共有するよう取り組んでいきたい。それが全ての基本となる。 ●実習場の機械・機器・工具の点検・改修・補充を行った。教育環境の維持に繋がっているが、管理徹底とは言いがたい。学生の夏季休暇中に管理時間を設定する。（次年度管理徹底する。）	AO科目担当者としての、必要な機器・教材については常に要望を行っている。しかし次年度の要望は前年度の10月には決定しないと授業計画は立てられない。そこからの意識改革が急務。 BO特定整備に関する機器を購入し2年生に対し授業を行う事が出来た。 DO機器・備品の取り扱いには注意し、学生への注意喚起を行っている。 DO購入機器の必要性や費用対効果の確認などに注意を払っている。 EO新たに使用する機器備品については、前準備を行っている。 FO昨年に引き続き実習で使用するジーゼル・エンジン4機の購入要望を行った。 FO次年度よりダイハツ寄贈のガソリン・エンジンを実習で使用する。 ○機器購入に関し要望を全く行えていない。

5. 学生募集	<p>○学生募集活動を積極的に行っているか</p> <p>○募集定員を確保できるように全教職員で取り組む。</p>	<p>◎担当地区の募集目標を達成できたか。</p> <p>◎担当校に特化したオリジナル資料を作成して募集活動を行ったか。</p>	<p>令和2年度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">(2. 6)</td> </tr> </table> <p>令和3年度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">(2. 7)</td> </tr> </table>	B	(2. 6)	B	(2. 7)	<p>○現在、定員目標に対して68%の充足率（34名の入学者続ぎ） 【担当教員内訳】 充足率200%：1名、充足率75%：1名、充足71%：1名、充足率56%：1名、充足率50%：1名、 充足率 0%：2名、の状況であり、前年比85. 0%と苦戦している。 今年度の特徴は、NGH：14名、佐土原：3名、日大：2名、鵬翔：2名、と複数名出願頂けた6校から4校に減少した。（6名減） しかし、2年以上の欠隔期間を明けて5校から6名出願頂けた。また現在2名（昨年度4名）である過年度生の増加を目指す。 ○担当地区・担当校の特性や特色の分析はまだ不足していると感じる。</p> <p>AO募集活動は積極的に行っているが、あと1名不足して目標達成に至っていない。オリジナル資料の準備・発案を行い、毎回の訪問のポイントとしている。 BOオープンキャンパスに参加した生徒に対し、作業風景などの写真を印刷し該当校へ持参できた。 ○目標の人員を確保することが出来なかった。 CO昨年度同様、考えながら積極的な活動に心掛けた。 ○目標数値が達成できなければ意味がない。今一度足りないものを考えることが必要である。 DO訪問・面談により、願書出願に向けた協力・相談をいただける学校が増えてきているため、さらなる高校の先生方とのつながりを強化していく。 ○自身の設定した目標には、到達できていないが追加で募集強化を行っている学校からの応募も出ている。 EO担当している4校について1名も達成できていない。 ○資料は企画広報部に任せっきりになっている。 FO募集目標数値1に対し2名が入学につながった。 ○希望者に合わせた資料を作成しオープンキャンパス後の訪問を行った。</p>
B	(2. 6)							
B	(2. 7)							
<p>令和2年度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">(2. 8)</td> </tr> </table> <p>令和2年度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">(2. 8)</td> </tr> </table> <p>令和3年度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 2px;">B</td> <td style="padding: 2px;">(3. 0)</td> </tr> </table>	B	(2. 8)	B	(2. 8)	B	(3. 0)	<p>○前年比135%であった前年度から、今年度は現在前年比85%と苦戦している。昨年度、「一過性のもので終わらないよう に、気を引き締めて取り組む」と目標を立てていたが、前年並みにも届いていない。最低でもあと6名募集を成功させ、前年の入学生40名はクリアしたい。しかし、本校を支援して下さる各高校の先生方が居られるからこそ現状があることと、その各高校の先生方との接点を大事にされているのは、本校教員の地道な取り組みがと感じる。だからこそ前年を死守したい。 ○募集の打合せ会で、企画広報部へ全教員から「提案・要望」ができる募集意識の活性化を図りたい。</p> <p>AO担当地区も2年目となり、更に以前の担当校も加わり、効果を考えた効率の良い訪問・情報提供が行えたと感じる。 ○高校ごとに持参資料の作成も行った。 BO自動車整備士を養成する学校であると認識して頂いた。 ○学校毎の特色を活かした資料などは作成出来なかった。 CO本校の特色や活動は資料等を活用してアピールできている。 ○主事を含む進路指導室の先生方全員へ向けて声をかけ、打ち解けられる状況を構築中である。 DO学校行事や方針などを伝え、本校への信頼をいただけるよう取り組んでいる。 ○高校側より相談や情報提供をさらにいただけるよう取り組む。 EO重点校については関係性をしっかりと築くことができた。 ○事前調査が足りずプラスαの情報提供が行えていない。 FO毎回面談頂ける進路の先生がいるが、話を聞いてもらえるだけで興味を示していただけていない。</p>	
B	(2. 8)							
B	(2. 8)							
B	(3. 0)							

※授業評価は4段階評価です。よって最高評価は4. 〇〇です。

■ 評価の基準は、 A (4) : 期待以上、 B (3) : ほぼ期待通り、 C (2) : やや期待を下回る、 D (1) : 改善を要する